

## 第2回山梨県食の安全・安心審議会議事録

令和2年11月2日掲載

○日時 令和2年10月6日（火）午前10時00分～12時00分

○場所 山梨県防災新館409会議室

○出席者 （敬称略）

（委員）：朝比奈委員、足達委員、遠藤委員、小野委員、剣持委員、  
神宮司委員、田草川委員、仲澤委員、長谷川委員、藤井委員、  
向山委員、森田委員（以上12名）（50音順）

（事務局）：県民生活部 小林次長  
県民安全協働課 望月課長、伊藤総括課長補佐、佐野主査  
渡辺副主査、大沼職員、三浦職員

○傍聴者等の数 0名

○会議次第

- 1 開会
- 2 県民生活部次長あいさつ
- 3 議事
  - (1) 「第4次やまなし食育推進計画」の策定について
    - ・第4次やまなし食育推進計画の構成について（案）
    - ・第4次やまなし食育推進計画の概要について（案）
    - ・第4次やまなし食育推進計画の目標指標について（案）
  - (2) その他
- 4 その他
- 5 閉会

○概要

- 1 開会
- 2 県民生活部次長あいさつ
- 3 議事
  - (1) 「第4次やまなし食育推進計画」の策定について
    - 事務局から、「第4次やまなし食育推進計画の構成について（案）（資料1-1）」  
「第4次やまなし食育推進計画の概要（案）（資料1-2）」、「第4次やまなし食育推進計画の目標指標について（案）（資料1-3）」について説明。

・ 第4次やまなし食育推進計画の構成について

○質疑は以下の通り

(委員)

資料1-1基本方針4の「3食品ロス削減の推進と体制づくり」につきまして、前回の審議会の意見を取り入れていただきましてありがとうございます。また、「4食に関する情報の提供」に「食品の安全性」と書かれていますが、先ほどの説明の中には、食品添加物について触れていないような気がします。最近はそのようなことは問題ないのかなと思っていますが、食品添加物についても我々消費者や関係者は、意識を持っていく必要があると思いますがいかがでしょうか。

(議長)

委員は食品添加物についてはどんな考えをお持ちですか。

(委員)

実は私の兄も農産加工品を作っていて、20年頃前に漂白剤を強く使用したために営業停止になった事があります。最近はそのような報道なども出ないのですが、私個人として食品添加物に関しては大きな問題であるという認識でいます。そのため質問させていただきました。

(事務局)

食品添加物や残留農薬等も含めて、皆さんが安全に食品を選択していただけるように、県でも食品表示の適正化ということで監視活動も行っています。そのような取り組みも、基本方針4の中に含めていきます。もし何か問題が起きたときは、他課とも連携しながらホームページにアップし、情報提供を素早く行っていく事も取り組みの中に含まれています。

#### ・第4次やまなし食育推進計画の概要・目標指標について

(議長)

第4次やまなし食育推進計画の概要案について、ご質問ご意見ありましたらお願いします。

(委員)

ローリングストックの推進はどのように位置付けていますか。第4次食育推進計画の中に無かったので、付け加えて欲しいと思ひまして質問しました。

(事務局)

ローリングストック法ということで食品ロスとの関係ですと、災害で備蓄された食品の中で賞味期限が切れそうなものは消費をして、さらに新しく買い足したものは備蓄に回す。このような体制にすることで、食品ロスを防いで賞味期限切れを防ごう、という事であると思います。概要には文字としては出ていないのですが、家庭における食品ロスの削減の促進の中で取り組んでいきたいと思っておりますので、長い目で見ていただけたらと思います。

(委員)

国の施策の中でローリングストックという推進を掲げていますので、県としても、取り入れて欲しいなと思いました。私たちはすでに、ローリングストックを活用したお料理を何品か展示をしたり、食の全国大会にも提示したりしていますので、ぜひ計画の中にも入れていただきたいと思いました。

(委員)

「あらゆる場面での食育の推進」の中に「朝食を毎日食べる子ども」というお話がありましたけど、本当に毎日食べることが正しいかどうかということ、各個人が判断すればいいことで、毎日食べないほうがいいよ、という情報提供もするべきであると思っています。両方バランスよく情報発信したら良いと個人的には思います。

最近コロナウィルスの影響で、“免疫力を高める食事”や“免疫を高めるには何がよい”という言葉は聞くのですが、具体的に何をどうすれば免疫力が上がるかについては誰も話しません。その辺を具体的に先生方から聞いて、情報として取り入れていけばいいなと思います。

あとですね、食品ロス削減の取り組み支援ということで、飲食店とか宴会での持ち帰りの推進は行った方が良くと思います。しかし、食べ残しを持ち帰った後に食中毒の危険性があるので、飲食店はあまり推奨しないと思います。そこは、取り組みとして保健所等に強く協力を求めたらいかでしょうか。さらにプラスで、グリーンゾーンやH A C C Pもそれぞれがバラバラになっているイメージがあるので、一緒になったら良いなと思いました。

(議長)

ありがとうございました。委員から、朝食や免疫力の問題についてよろしくお願ひします。

(委員)

朝食欠食に関してですが、子ども達の場合ですと学力に差にでてきます。朝食欠食がある子ども達の方が学力が低い、入りたい大学に入れていないという結果も出ています。また、朝食欠食がある子ども達の方が、体力測定の結果が良くないという結果もあります。大人の場合では、朝食欠食をしていると集中力が途切れる、或いは事故を起こしやすいというデータがあります。ただ朝食の欠食だけではなく、朝食の内容の問題もあります。例えば、“おにぎりだけを食べた”と“主食・主菜・副菜のそろったごはんを食べた”では、おにぎりと同じエネルギー量だが後の方が集中力が途切れない、事故を起こしにくい、という結果があります。そのため、第4次食育推進計画の目標が朝食欠食についてだけではなく、“主食・主菜・副菜のそろった食事”という項目もあればいいなと思いました。また、目標の対象の中に子どもや中高年までは入っていますが高齢者が入っていないので、フレイルの予防を考えると高齢者まで入れるべきであると思います。もう一つは“運動や食生活の生活習慣の改善に取り組む人の割合”と言う表記は非常に漠然としていて分かりづらいので調査項目を分けた方が良くと思います。

免疫力の問題については、バランスのとれた食事を朝昼夕しっかり食べることが重要です

(議長)

ありがとうございました。朝食の問題につきましては、健康日本21の中でも、子どもの朝食欠食率は少ないのですが、そうは言っても朝ご飯を食べるという習慣をつけることは大事であると思います。

栄養バランスの頭に“主食・主菜・副菜をそろえた、栄養バランスの取れた食事は免疫力が高まるよ”という表現だけで進めるべき計画ではないと思いますので、免疫力については検討する余地があると思います。

(委員)

免疫力を高める食事の提案ということですが、しかし、“免疫力”という言葉の定義ははっきりしていない中で、“ヨーグルトが免疫力を高める”等の情報も出回っています。しかし、消費者庁はそのような誤解を招かないように“免疫力を高める食品はありません”と呼びかけをしているくらいなので、「免疫力を高める食事」と言ってしまうと特定の食品を進めるような誤解が生まれる可能性もあります。そのため、主食・主菜・副菜のそろった食事を推進するという言い方の方が良いと思いました。

先ほど添加物のお話がありましたが、去年添加物の検討会が消費者庁で実施

され、リスクコミュニケーションがすごく大事という話が出ております。特定の添加物が危ないという情報も多いのですが、2003年は食品安全元年と言われていて、食品安全委員会ができ、しっかりリスク評価がされています。このような事も引き続き情報提供が大事だなと思いました。

食中毒の予防は、今年食品衛生法が改正されHACCPが導入されて、食品衛生のレベルも上がってきていますが、消費者として、事業者として気をつけなければいけない食中毒予防がありますので第4次食育推進計画の中に入れていただきたいです。全体的に食品ロスが大きく出ていますが、食の安全も大事な情報であると思います。

(事務局)

食中毒につきましては、食の安全・安心推進計画がありますので、そちらの方を中心に上げていき、第4次食育推進計画は情報提供という形で書かせていただきたいと思います。

(委員)

あらゆる場面での食育の推進という中で、うちはオーガニックの農場を経営しております、有機農産物の子ども達への認識がまだ全然されていません。山梨県は有機農業を目指す仲間も多く、一般的な食品と有機の違いを少しでも子ども達に理解してもらいたいという想いが、この計画では伝わらないのかなと思いました。施策が多い中で、このような事を組み込む事は難しいかもしれませんが、1週間に1度でも子ども達に有機農産物を食べてもらって、健康維持増進に繋げて欲しい、という気持ちがありますので検討いただきたいです。

(委員)

第4次食育推進計画の全体の組み立ては良いと思いますが、基本方針の「あらゆる場面での食育」という部分が非常に分かりにくいと思いました。学校や保育所等書いてありますが、基本は家庭にあると思います。今は、食育のとらえ方、食生活の問題、一番課題として挙げられているのは子育て世代の若いお母さんのところですか。そういったところに着眼点をおく事が必要であると思います。

それから、国の計画の重要課題に「生涯を通じた心身の健康させる食育」というところがあります。県の構成の中にも、「企業の食育或いは健康寿命」という部分があります。我々のJAグループの中でも健康寿命という所にも注目しており「食・運動・検診」の三つの取り組みの中で“健康寿命を伸ばしていきましょう” “100歳プロジェクトを進めていきましょう”ということがあり

ます。その中に出るのは食育を進める上で食の問題だけを捉えたのであれば、健康寿命には繋がらないので運動を加える、それから定期的な検診を行う、その部分のバランスが取れたところで健康寿命も上がりますし、効果的に食育に繋がってくると思うので、具体的な施策の中では必要であると思います。

さらに、第4次食育推進計画の取り組みに「食育推進運動の展開」とありますが、前は県民運動だったのですよね。今回食料・農業・農村基本計画が見直されてその中でも、食の問題については、国民運動としての定義が出ました。具体的に県民運動として何をするかというところを入れていく必要があると思います。

また、「食による地域の魅力発信」の中で、「環境にやさしい農業の推進」という言葉がありますが、いろいろな意味合いがあると思います。我々、生産者団体としても農薬の適正使用、農薬取締法の中で、適正使用に向けた残留農薬の検査も定期的に行っておりますし、放射性物質検査も行っています。そういった部分の中で、全国で残留農薬の違反件数がないのは山梨県だけです。これは、行政と生産者団体とメーカーさんが防除歴という物を作っております、生産履歴を書いて、出荷時にはその履歴を確認して出荷にあたります。健康という部分において、農薬は非常に嫌われるのですが、害のない生産に努めていますので、「環境にやさしい」では無く「安全な農業」なんです。そのようなことで誤解を招く部分が非常に多いので、ここの表現は変えていただければありがたいと思います。

(事務局)

「環境にやさしい農業」という部分については、残留農薬や安全性というよりは、循環の方がメインでして、環境に配慮して持続可能な農業を行っていくという意味で、環境にやさしい農業の推進と書かせていただいております。委員の言われた部分ですと、食の安全・安心推進計画で大きく取り上げていくところであると感じました。また内容と表記の仕方については検討させていただきますので、よろしくお願いいたします。

(委員)

私も委員と同じで“環境にやさしい・体にやさしい”という曖昧な言葉がすごくあやふやなので、私自身説明できないです。山梨県の農業の方は、残留農薬は農協の方が全部調べています。逆に自分の家や道の駅で出している野菜等は残留農薬を調べているかと言われたら分からないです。でも、そういう部分も含めて、環境にやさしい農業という言葉は審議委員として説明出来ないの、このような表現はしない方がいいのではないかと思います。

さらに、学校給食における資料1-3の指標項目3番に「学校給食における地場産物の使用割合」が金額ベースに書かれていますが、旬の食材を使用すればコストを抑えられますが、旬以外のものを使えば金額ベースではどんどん上がっていくと思います。金額が上がった場合に、誰が負担していくのか。金額は抑えて子供たちも美味しく栄養もバランスも良く、地場産物の食材を使う、となるとかなり難しいものがあると思います。僕らパン屋の場合、学校給食で一番単価の安いパンとなると、コッペパンと食パンだけになってしまう。しかし、パン1つにしても子ども達にとって楽しみがあつての食事であると思います。心からの栄養も入ってくると思っていますので、栄養のバランスだけでなく、楽しさも含めた食という事を考えていただければと思います。

(委員)

資料1-2「食育に関する国の動き」のコンセプトに「SDGsの実現に向けた食育の推進」とありますが、SDGsだけではなくて家庭や県民の中でトレードや、エシカル消費等の意識が非常に高まっています。このような状況の中で、「食育に関する国の動き」という表現が適切なのか少々疑問に思っています。

(事務局)

こちらで国の動きと書いた理由は、基本計画を国が定めている最中という意味で書かせていただきました。また違う表記ができるかどうかは検討させていただきます。

(委員)

基本方針の4番に「食品の安全性」と書かれてあるのですが、“食品”となると狭い感じがします。ここを食品とした理由は何かあるのでしょうか。“食の安全性”ではなく“食品の安全性”とうたった理由は何かあるのでしょうか。

(事務局)

前回は「食品」と書いてあったのでそのまま踏襲してしまいました。表記については検討させていただきます。

(委員)

資料1-3の学校給食の金額ベースが赤になっているのですが、これはどういう意味合いで、金額ベースという表現になっているのですか。

(事務局)

今までは使用した食品のうちの何品目が地場産だったかという数え方をしていたのですが、この金額ベースというのは材料費のうち幾らが地場産のものを使ったか、という表現になります。この目標値が国の基本目標と、今まで連動させて使っていましたので、国がもし金額ベースに変えていきますと、県も連動して金額ベースに変えるかどうか検討していく予定です。今は国の動き待ちというところもあります。ただ、金額ベースが正しいのかどうかは検討段階ですので、正確にはまだわからないところです。

(委員)

学校給食の、食費の部分で、やはり、僕らの水産関係の同業者でも非常に魚が高騰していて、なかなかメニューに金額では当てはまらない状態になっています。それは、物価上昇とともに給食にかかる相対費用を、見直していかないと、子どもが楽しい食事・おいしい食事というところに持って行けない気がします。学校給食にかかる金額は、もう何十年も変わっていないような話を耳にしました。給食費がもし父兄の負担になるのであれば、それは県独自で学校給食に対して負担をすとか、何か考えていかないと給食自体の内容は向上できないと思います。ご検討いただけたらと思います。

(委員)

県民1日の塩分摂取量が外された理由は何かあるのでしょうか。

(事務局)

塩分摂取量につきましては、県民栄養調査の数字をもとに、今まで現状値と目標値を定めていたのですが、今回調査時期がずれてしまって、令和3年度に調査がなされるということです。次の調査は5年後になると思いますので、目標年の実績が取れないということで、外させていただきました。目標数値として載せると現状値は平成26年のままの数字で、令和3年の調査数値が目標値になりますので、計画が始まった初年度にもう実績が出てしまうということになるため、ふさわしくないという理由で外させていただきました。

(委員)

健康を考えたときに、まず1番影響が及ぼす物がタバコで、2つ目が食塩と言われていまして、山梨県はまだまだ全国の中でも非常に食塩摂取量の多い地域であります。

(事務局)

以前、会長も塩分の話をしていて、今回委員からもお話ありましたので、載せるかどうかは明確ではないですが、検討させていただきたいと思います。

(議長)

ありがとうございました。食塩摂取量については厚生労働省の「日本人の食事摂取基準」の中で公表しております、公表のたびに塩分摂取量目標値が下がっています。今年から新基準が定まったのですが、男性は7.5グラム、女性は6.5グラムですね。実際、国民健康栄養調査では10.23グラムぐらい取っている現状でして、この先5年後にはもっと下げよう、という考えがあるようです。ここで計画から抜けてしまうと“もう塩分の摂取量の問題は解決したんだ”と理解されてしまいます。指標は市町村の栄養士さん・食生活改善推進員さんたちも参考にしている、地域の人達に普及をしようと活動していますので、塩分を除いてしまうと話題から消えてしまう可能性があります。まだまだ委員が言ったように山梨県民は、塩分摂取量をずっと意識していかなければならない。例えば目標値にする値は、国民健康栄養調査のデータや食事摂取基準でも良いと思います。食育推進計画を参考に、普及啓発を進めていきたいので載せていただきたいと思います。

フレイルという問題ですが、高齢者も若い女性も含めて、低栄養という状態は痩せすぎな方のことです。山梨県の26年の県民栄養調査でも、75歳以上の低栄養傾向の方は29%、3人に1人と言われています。低栄養状態が続くと要介護状態になって、認知度も減少傾向にもなると言われていて、特に高齢者の低栄養は、医療関係者・栄養士・管理栄養士以外はあまり関心を持ってくれないのです。お年寄りに食べさせてもしょうがない、そうではないのです。基本的にはエビデンスがあって、適正体重に戻さないといけない理由があります。BMI（体格指数）の表も、食事摂取基準が変わる度に高齢者が上がっています。若い人は18.5以下が痩せすぎ、65歳以上の方は21.5以下が痩せすぎに該当します。ですから若い人はもっと太っていた方がいい、というところに触れていただきたいと思います。

食の伝承マイスターの7団体ということですが、増やしていこうとお考えですか。

(事務局)

はい。増やしていく予定です。今年度も、認証できる団体について推薦をいただいたり、検討しているところです。

(議長)

何か推薦基準はあるのですか。

(事務局)

そうですね。手元に資料はありませんが、認定の基準はあります。

(委員)

会長さんが言われた高齢者の話はとても大事な事とっていて、食に関する情報の提供というところで、日々情報は変わっていくのでそういう所を多めに情報発信して欲しいと思いました。

(委員)

私も今のご意見に賛成でして、食品ロスが全体的に大きく出ているのですが食塩の問題、若い女性のやせ、高齢者のフレイルといった食事摂取基準2020にそって、対象者に健康の情報を提供する事はとても大事な事だと思います。8.0グラム未満と記載を見て、食事摂取基準2020と乖離があるため、それではなくなってしまったのかなと思いました。そのような実態があるということでしたら、8.0グラム未満でもとにかく何かを明示する事はすごく大事な事であると思います。ご検討いただければと思います。

(委員)

基本方針の「あらゆる場面での食育の推進」のところの2番、「朝食を週5回以上食べる若者」の年齢の定義についてです。先日健康科学大学の永井先生の講演を聞いたときに、18歳ぐらいの学生さんが朝食を食べる回数を聞いて結構衝撃を受けたのですが、1日1食で夜は残ったものを食べて済ませるなどでした。お金がないという理由もあるとは思いますが、対象年齢を20～39歳ではなく18歳ぐらいから年齢を入れた方が正しい数値になるのではないかと思います。

(委員)

現実に大学生の欠食が多いことは私もよく感じます。栄養学部以外の学生は非常に多いです。しかし逆に、18歳の子たちの方がまだ食べていて、3年生、4年生になるともっとひどくなる傾向で、良くなる一方です。調査年齢が20歳からと言うことは、県民栄養調査もそうですが、若い人の調査人数があまり多くないので、調査対象としても統計的には変わらないという理由もあります。高校生はまだ自宅にいるので食べているのですが、そこから一人

暮らしになった途端に確かに食べなくなります。しかし学年が上がるとさらにひどくなるということも現状です。

(委員)

朝食を食べる若者は、20～39歳となっているが、「若者」という表記でよいのか。

(事務局)

年齢の定義はまた確認させていただきたいと思います。そもそもこの年齢で続けることがふさわしいのかどうかというご意見があれば伺いたいと思いますが。

(委員)

年齢はどうかというよりは、世代に限らずに、朝食を食べるということを普及していく事が一番大事であると思うので、私個人としてはどっちでもいいと思います。大事なことは、この目標値を定めるだけではなくて、実生活に合わせて自分の親世代が子どもに対して、毎日朝食を食べてもらえるようにはどういうふうに、しつけどったり指導したらいいのかという部分をもっと掘り下げて噛み砕いて伝えていかないとなかなか目標値をクリアすることは難しいと思います。具体的な改善の方法や、正しい情報をもっと積極的に、発信していくことを大事にした方がいいと思います。

(委員)

朝食を食べる家庭の子どもは成績が良い、という事は統計的に事実ですよ。しかし、そういうしっかりした家庭で育った子どもはいいよ、というところもちょっと加味してるのかなと思うと、小学生の低学年辺りを入れた方が、いいのかなと思います。中学生からいきなり朝食を食べなさい、といってもそれはもう無理な話で、要は子どものしつけではなく親のしつけをする方向で考えた方がいいと思っています。

(議長)

ところが小・中学生の朝食欠食はほとんどないです。わざわざ小学生に焦点を当てなくても良いと思います。

(委員)

資料1-3の指標項目8番が消されていますが、地産地消、郷土食を広める意

味で文面は変えても結構でございますが、ぜひ残す方向でご検討いただければと思っております。

(事務局)

こちらについて消した理由は、コロナの発生で講習会や研修会ができなくなってしまった状況がありまして、この活動自体をおろそかにするというわけではないのですが、目標値が設定しづらくなってしまった部分もあり削った次第です。

(委員)

コロナ下における状況というのは理解できますが、その状況の中での実態を踏まえてこういう活動は必要ではないかなと思っております。ご検討いただければありがたいと思っております。

(議長)

資料1-1から1-3まで何か追加でありましたらお願いします。

(委員)

資料1-3の食品伝承マイスター認証に富士吉田市のひばりが丘高校のうどん部が入っているのですが、山梨県は食塩摂取量を減らさなければいけないという中で、吉田のうどんはすごく食塩が多いです。そして、2年ぐらい前にニュースで放送された時に、私どもの道の駅のうどん屋さんがバックに映って、あたかも犯人だみたいな印象を受けるようなニュースでした。先ほど委員の方から話があった通り、栄養成分的に悪いとかでは無く、楽しい食事にするという事も栄養じゃないかなと思います。吉田のうどんを参考に出させていただきましたが、食塩が多い食べ物だから駄目、という偏った発信は控えたほうがいいのかなと思えました。

(議長)

上手に楽しく食べる工夫をするということも必要です。漬け物も、どんぶりいっぱい食べるのと、小皿に出して食べるのとでは違います。食べる工夫をすることが大切だと思います。

(委員)

資料1-2の計画の概要案については1、2年後に見直しをされるのでしょうか。というのも、資料の中に“新型コロナウイルス感染”という言葉が出ている

のですが、5年後も新型コロナウイルス感染症が収束していない状況ではない、と心配しています。ご検討いただければありがたいと思っています。

(2) その他

(議長)

その他に移ります。事務局からお願いします。

(事務局)

次回の審議会は12月18日(金)午前中に予定していますので、ご予定をお願いします。

(議長)

それでは時間になりましたので、議事を閉じさせていただきます。

4 その他

5 閉会